

命を守るために（小学校高学年）：目標分析表

	学習活動	感動の体験	感性を育む	想像力の育成	先生の振り返り
事前	自己発見の体験をする。	自分の中にある様々な感情に気づく。	学級に存在するいじめやトラブルに目を向ける。	自他を大切にすることについて考える。	
1次 (2時間)	人間にはどんな感情があるか考える。 自分がどんな時にどんな気持ちになるか、どんな行動をとるか考える。 感情の適切な表現について考える。	自分の怒りや悲しみが引き起こす自分の行動に気づく。 いじめとけんか等の行為の違いに気づく。	人には様々な感情表現があることに気づく。 いじめが人を傷つけるものであることに気づく。 いじめを許さないという気持ちを持つことができる。	感情のままに行動すると、どのような事態を招くか考える。 感情の適切な表現について考えることができる。 いじめであることを見抜き、いじめが命をおびやかすものであることに気づく。	いじめとけんかの違いを理解させることができたか。 様々な感情表現があることに気づき、感情の適切な表現について考えさせることができたか。
2次 (3時間)	アサーション・トレーニング ・自分の話し方の特徴を知る。 ・アサーティブな話し方を理解する。 ストレスマネジメント体験をする。 ロールプレイングを体験する。	学校生活での様々な体験により引き起こされる感情を、自分でコントロールできることを実感する。 いろいろな場面を体験することにより、様々な感じ方や見方ができることに気づく。	怒りに任せず、冷静になるように、気持ちをコントロールすることの大切さを感じる。 人とのよい関係を築くためには、他者を思いやる気持ちが必要であることを感じる。	自分の話し方が人からどのように受けとめられているか想像することができる。 自分も他者も尊重した自己表現ができるようになる。	思いに任せる行為が、予期しない結果を招くことに気づかせることができたか。 感情に流されず、自分の気持ちをコントロールできることを実感させることができたか。
3次 (2時間)	構成的グループ・エンカウンターを活用して共感性を高める体験をする。 いじめや暴力に対して、傍観者にならない等よりよい選択ができ、それを行動に移すために話し合いをする。	人と人がつながる喜びを感じ、そうした思いがいじめや暴力に立ち向かう力となることを実感する。	自分を大切にすることが、相手を大切にすることにつながることを実感する。	自分も他者も共にかげがえのない存在であることを実感し、いじめの抑止に積極的に取り組もうとする。	自他のかげがえのなさを実感させることができたか。 相手のことを思いやる気持ちを持ち、行動に移そうという気持ちを持たせることができたか。